

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

「卒業してからの私」

この度は、20年続いた専攻科福祉専攻の歴史が終わることを大変寂しく思っています。

私は、2回生になりますので、今から約18年前に入学しました、当時は、10名のクラスメートがいて、20歳から50代の幅広い年齢層で構成されていました。私が専攻科福祉専攻に入学した理由は、子どもが高校生になり、私も何かにチャレンジしたいと思い介護福祉士の資格を取ろうと思いました。義弟が豊橋創造大学に勤めている縁で、専攻科福祉専攻を身近に感じ社会人入学をしました。若いクラスメートと机を並べて勉強し、毎日があっという間に過ぎた充実した一年でした。

卒業後は介護老人福祉施設で正職員として働き、夜勤もやってみましたが、家庭との両立が難しく退職しました。その後は、パートで介護の仕事を続けました。その甲斐もあって、ケアマネジャーの資格も取り、約1年前まで、パートでケアマネの仕事をしていました。専攻科から始まった介護の道ですが、人生というものは、チャレンジすること、思い立ったらやってみること、そういった思いが、人生を創るものだと思います。

こうした、思いを大事にしてくれたクラスメートや先生のサポートこそが、今の自分につながっているといても過言ではないと思います。

18年前と変わらず、大林先生は、専攻科福祉専攻にいてくれることがうれしいです。専攻科での、大林先生の熱心な授業は今も忘れません。社会に出るといろいろな事があり、勉強した事と、介護現場とのギャップも大きく、思い悩むこともあると思いますが、目の前の事をひとつひとつクリアーして下さい。介護の仕事が続けていくと良い事もたくさんあり、得る事も多いです。在校生の皆さん、頑張ってください。

最後に、大林先生に出会えて良かったです。大林先生、有難うございました。

2022年1月

2回生 平松尚余